

住民の意識からみた都市の魅力度—都市機能との関連において—

秋田大学 正会員 清水浩志郎
秋田大学 学生員 京野 秀朗
秋田大学 学生員 ○佐々木 肇

1. はじめに

都市の魅力とはなにか。どのように定義づけ量化するのか。都市の魅力は、個人的な意識によって決定されるもので、これを数量的に表現することは極めて困難な作業である。それは、魅力には日常生活上のあるいは日常娯楽上の都市諸施設などの物理量によって決定される要素と、土俗性ともいえるような精神的な要素、また多分に情緒的な要素とを含んでいて、それらが極めて複雑に錯綜して意識を構成しているからである。都市の魅力を地域との関連からとらえるには、地域住民の意識構造を把握し、その結果を用いて都市諸機能との相互関係を把握することが必要である。都市の魅力は都市住民の立場からみれば「住み良さ」によって、また物理的には都市の施設量によって表現できると考え、相互間にどのような関連を有しているのか、その意識構造は、などと明確にすることが本報告の目的である。なお、調査対象地域は秋田県内の8市である。

2. 都市の魅力度調査結果

2-1 単純集計結果

調査対象地域において表-1

都市名	大館	鹿角	能代	男鹿	本荘	大曲	横手	湯沢	全市平均
住み良い(%)	56.8	69.4	50.5	50.2	75.9	57.1	55.4	62.6	59.2
ずっと住みたい(%)	69.5	69.8	66.6	64.2	63.7	68.6	72.3	70.0	68.2

表-1 「住み良い」「ずっと住みたい」の集計結果

に示すように各都市とも50.2～

75.9%が「住み良い」また

70%近くの人が「ずっとこ

こに住みたい」と回答して

いる。しかし、表-2に示

すように各都市とも教育、

演奏会や演劇、スポーツを

楽しむ機会、あるいは繁華街など都市の機能を示す大きな要素には極めて不満度が高い。また、全市平均で「よ

そへ移りたい」所として「同じ都市内」が約46%、「他の地方都市」が約36%で、同じ都市内への移住希望が、

非常に多く「大都市」及び「農山漁村」への移住希望者は非常に少ない。

都市名	大館	鹿角	能代	男鹿	本荘	大曲	横手	湯沢	全市平均
教育への不満(%)	67.0	67.6	57.4	67.7	47.8	35.5	57.7	60.4	58.3
演奏会・演劇への不満(%)	73.7	80.0	71.2	82.6	56.3	63.7	60.8	80.9	71.1
スポーツへの不満(%)	52.3	56.2	49.8	54.0	40.4	40.0	56.9	60.4	51.3
繁華街への不満(%)	55.3	58.3	47.9	64.7	59.6	30.2	46.9	56.9	52.4

表-2 都市機能への不満度

また、全市平均で「よそへ移りたい」所として「同じ都市内」が約46%、「他の地方都市」が約36%で、同じ都市内への移住希望が、非常に多く「大都市」及び「農山漁村」への移住希望者は非常に少ない。

大館	鹿角	能代	男鹿	本荘	大曲	横手	湯沢
$Y=9.862X^{0.703}$	$Y=13.257X^{0.600}$	$Y=38.960X^{0.177}$	$Y=14.675X^{0.480}$	$Y=37.172X^{0.138}$	$Y=26.159X^{0.356}$	$Y=21.872X^{0.419}$	$Y=34.070X^{0.210}$
$R=0.969$	$R=0.933$	$R=0.802$	$R=0.902$	$R=0.722$	$R=0.976$	$R=0.958$	$R=0.634$
Y: 住みたい X: 在住年数 R: 相関係数							

表-3 「住みたい」(%)と在住年数との相関分析結果

また、在住年数と「住みたい」の関係は指数関数で最もよく表現できた。表-3によれば、在住年数が長くなれば、「住みたい」が増大していることがわかる。

2-2 住み良さに対するクロス集計結果

「住み良さ」に対して、関係があると思われる項目とのクロス結果を表-4に示す。「住み良さ」での回答のうち「わからない」は除いている。これによれば「住みにくい」人は、「住み良い」人と比べて教育では24.1%

演劇会・演劇を楽しむ機会では12.7%，スポーツを楽しむ機会では16.8%，繁華街では22.4%，それぞれ不満が多くなっている。このことは、施設面で、繁華街における娯楽施設、教育施設が他の施設よりも「住み良さ」に大きく影響しているようである。「住み良い」人と「住みにくい」人の意識の違いが最も顕著に表われているのは天候で、「住みにくい」は約30%も不満が多い。次に、住居状態から見れば「住み良い」は、自分の住居に對

項目	住居	教育			演劇会・演劇			スポーツ			繁華街			天候		隣近所とのつきあい										
回答 割合 (%)	満足 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき	満足 普通 不満 おどろき								
住み良い592	58.6	39.8	1.6	7.4	38.3	51.8	2.5	2.9	25.4	67.3	4.4	8.0	42.0	45.6	4.4	2.5	45.2	45.4	6.9	68.9	10.5	20.6	51.4	46.9	1.2	0.5
住みにくい240	30.5	67.4	2.1	2.1	22.5	72.9	2.5	0.4	16.6	80.0	3.0	3.6	30.0	62.4	4.0	0.4	25.6	67.8	6.2	29.6	40.1	30.3	29.4	63.7	5.5	1.4

表一四 クロス集計結果

して58.6%が満足しているが、「住みにくい」では30.5%にすぎない。また、隣近所の人と気がねなくつきあいをしている人は「住み良い」人が51.4%，「住みにくい」人が29.4%で、差が生じている。隣近所とのつきあいいわゆる共同体社会のさびかとしての人間関係が大きな要素となっているようである。

2-3 都市諸機能との相関結果

表一五 相関分析結果(上)

表一六 変量名(F)

各都市に	変量	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	X11	X12
教育	教育の不満	-0.690	0.769	0.787	0.119	-0.660	-0.099	-0.259	-0.007	-0.508	-0.659	-0.890	-0.501
演劇会・演劇	演劇会・演劇の不満	-0.651	0.760	0.825	-0.090	-0.904	-0.302	-0.122	0.048	-0.492	-0.625	-0.595	-0.681
スポーツ	スポーツの不満	-0.364	0.458	0.432	-0.149	-0.663	-0.452	-0.128	0.319	-0.436	-0.383	-0.702	-0.206
繁華街	繁華街の不満	-0.761	0.881	0.748	0.412	-0.324	0.149	0.265	0.110	-0.551	-0.545	-0.814	-0.663
住み良い	住み良い	-0.398	0.201	-0.245	0.832	0.541	0.691	0.333	0.707	-0.418	0.095	-0.082	-0.314

記号	変量名	内容	単位	記号	変量名	内容	単位
X1	人口密度	総人口/総面積	人/㎡	X7	公共施設普及率	公共施設施設数/総人口	人/100
X2	物価指数			X8	図書館蔵書比率	蔵書数/総人口	冊/人
X3	商店数率	商店数/総人口	人/100	X9	幼稚園数/1000人	幼稚園数/総人口	人
X4	人口1人当り公園面積	公園面積/総人口	㎡	X10	高校進学率	高校進学数/15歳以上人口	%
X5	バット普及率	バット数/総人口	人/100	X11	飲食店普及率	飲食店施設数/総人口	人/100
X6	スポーツ施設普及率	スポーツ施設数/総人口	人/100	X12	大規模小売店普及率	店舗面積/総人口	㎡/人

一六に示す。表一五の値は相関係数である。表一五によれば、各不満度と都市諸機能では、繁華街に対する不満度を除いて、あまりよい相関はみられない。また、「住み良い」は、人口1人当り公園面積、図書館蔵書率、スポーツ施設普及率、バット普及率、などと相関が高い。

3. 調査結果のまとめ

本報告では、住民の意識からみた都市の魅力と「住み良さ」に重点をおいて考察した。「都市の魅力」には、数々の要因が複雑に錯綜しているから、それを短格的に「都市の住み良さ」という概念で表現するには、かなり無理があると思われる。しかし、「住み良さ」が住民の感じる「都市の魅力」に大きく影響していることは事実であろう。教育、演劇会・演劇、スポーツを楽しむ機会、あるいは繁華街など都市の魅力を示す大きな要素に対しては「不満」が非常に多いにもかかわらず「住み良い」「ずうと住みたい」が多い。また、「住み良い」「住みにくい」人の意識の違いが、天候、住居に対する不満、及び隣近所とのつきあいの程度において非常に大きく表われている。これらについては次のように解釈できよう。つまり、都市諸施設に対して、かなり不満を感じてはいても、生活を維持できるような最低の都市諸施設があればよいという、いわゆる「住めば都」的な意識や、人間関係が大きく作用しているからと思われる。また、教育、演劇会・演劇、スポーツを楽しむ機会、あるいは繁華街などと、都市諸施設との相関分析では繁華街を除いては、顕著な関係は見い出せなかった。このことは、施設量に関係なく、むしろ施設の運営面や管理面に大きな問題があるのではないかと思われる。「住み良さ」に影響する都市諸機能との分析結果から、「住み良さ」は、健康で文化的な生活を営む上での都市諸施設に大きく影響しているといえる。今後、要因分析を主に分析を進める予定である。